

平成 25 年 3 月 1 日

平成 24 年度学校経営報告書

八王子市立片倉台小学校
校長 山崎 富子

1. 今年度の取り組みと自己評価

(1) 教育活動への取り組みと自己評価〔別紙 1 平成24年度 学校経営計画 (目標と方策)〕

①教職員の資質向上と組織的な学校運営

*校内研究の推進

- ・体育科について研究を進めた。授業研究年 3 回
- ・10 月 24 日 (水) 5 校時 5 年 1 組 (横川 浩之) 講師 須長孝夫研究主事
- ・12 月 5 日 (水) 4 校時 1 年 2 組 (後藤 真輝) 講師 須長孝夫研究主事
(講師の体調不調により 11 月 28 日より延期)
- ・12 月 5 日 (水) 5 校時 3 年 2 組 (藤原佳代子) 講師 須長孝夫研究主事

*授業改善の充実

- ・全教職員による授業公開を平成 25 年 2 月 14 日までに終了。
- ・工学院大学理科教育センターで若手教員が積極的に研修を行ったことが認められ、表彰されると共に東京八王子ロータリークラブより副賞として 30 万円をいただいた。片倉台小学校では、実物投影機等を各学年で使用できるよう購入し、更に理科教育の推進に努めていきたい。

*サービス事故ゼロ

- ・サービス事故を起こすことなく、1 年間を終えることができる見込みである。

*新学習指導要領の適正な実施。

- ・教務主任とも連携し、平成 24 年度の教育課程も適性に実施できる見込みである。

*通知表改訂の実施

- ・観点別の通知表に改訂し、2 年目となるが評価規準・通知表作成補助資料等も見直しよりわかりやすくなるよう改善し、保護者にも丁寧に説明することができた。

②学ぶ意欲と確かな学力の定着

*土曜日補習授業の実施 (年 10 回) により、学習意欲の向上に努めた。

*地域人材 (注連飾り、俳句、茶道、絵手紙等) や第一線で活躍している方々 (日本画、マリンバ、天文学等) を招き、体験的な活動を多く取り入れ子どもの意欲向上に成果を上げた。

*平成 24 年 5 月 21 日 (月) 天文スタッフや地域・保護者の協力を得て、12 学級で各学級 1 台 (計 12 台) の望遠鏡を用意し、「金環日食観望会」を実施し、児童の学習意欲向上に効果を上げた。

*各家庭の協力を得て、家庭学習が 8 割程度定着しつつある。

③健全な心身の育成

*生活指導の充実 (週 1 回の生活指導朝会を行い、情報交換した)

*ゲストティーチャーによる歯磨き指導を 1・3・5 年で行った。

*由井中・中山中と連携し、PTA・地域の方に協力をいただき、年 3 回「あいさつ運動強化週間」を実施し、「進んであいさつするようになった」との声をいただいた。

④特別支援教育の充実

*特別支援委員会の実施により、児童の指導を充実

- ・特別支援委員会で検討し、特別支援学級の担任とも連携し、支援が必要な児童についてよりよい指導について保護者と話し合うことができた。
- ・通級学級の担任とも連携し、支援が必要な児童について全職員でよりよい指導について共通理解を図った。
- ・ブロック内のスクールカウンセラーを活用し、保護者や児童の相談を受け、不安解消に努めた。
- ・学校サポーターを活用し、個に応じた指導ができるよう努力した。

*平成 22 年 4 月に特別支援学級を開級し、児童数が予想以上に増加し、円滑に運営することができた。本校への希望者が多く、平成 25 年度は、4 学級になる見込みである。

⑤安全な教育環境の整備

- * 地域・関係機関と連携し、安全教育を充実
 - ・セーフティ教室、交通安全教室等地域の協力を得て行うことができた。(5,6年生もAEDの使い方・心臓マッサージ等の体験を通し、防災意識が高まった)
- * 学校東門側渡り廊下改修(屋根の高さを高くし、有事の場合にも大型緊急車両が校庭に入れるようになり、体育館が避難所になったとしても体育館へ入場する人の動きと物品搬入の動線を分けることができた。)

⑥特色ある教育の推進

- * たてわり班活動を中心とした異年齢児童の活動を充実
 - ・たてわり班で栽培活動やたてわり班遊びを行い、高学年が低学年児童の面倒をよく見ている。(別紙2 児童アンケートまとめ)

⑦保護者・地域と連携し、開かれた学校の推進

- * 教育活動情報の発信を充実
 - ・月2回の学校だより発行、ホームページの充実等を行った。
- * 学校評議員会の開催、職員会議への参加
 - ・学校評議員会は、年3回実施した。また、学校評議員1名が、職員会議に8回程度参加した。
- * 児童・保護者等のアンケートを2回実施した。(別紙2 アンケートまとめ)
- * 読み聞かせボランティア、図書ボランティア、栽培活動ボランティアの募集
 - ・PTAと連携し、火曜の朝読書には、保護者が読み聞かせに来てくれたり、図書室の整備をしてくれたりした。また、正門横の花壇等保護者が手伝ってくれた。
- * 地域・保護者の協力を得て、6月より「放課後子ども教室」を開始することができた。高学年の児童がたくさん参加し、地域人材の活用により図書室で昔遊びコーナー等も開設している。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

①学ぶ意欲と確かな学力の定着

- * 少人数算数指導の充実と改善
 - ・習熟度別の指導を取り入れながら実施し、学力定着度調査では、一定の成果を挙げることができた。
- * 家庭学習の習慣化及び充実
 - ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し、保護者の協力を得て、自主学習の習慣が付きつつある。(別紙3 家庭学習の手引き、児童アンケートのまとめ)
- * 授業時数の確保
 - ・予定通り授業時数の確保ができた。
- * 年間を通して15分の朝学習を確保
 - ・火曜(読書)木曜(くり返し学習・音読暗誦・計算等)の15分間朝学習を年間通して行った。
- * 総合的な学習の時間の充実と改善
 - ・各学年で地域のゲストティーチャーや保護者を招き、授業を行った。
2年(豆腐作り他) 3年(昔遊び、七輪体験、ポップコーン作り等)
4年(菊作り、絵手紙、点字体験等) 5年(茶道体験、しめ飾り作り、食育出前授業等) 6年(俳句、茶道体験、食育出前授業等)
・金環日食観望会(東京学芸大学名誉教授水野孝雄先生) マリンバ(新谷祥子さん)
日本画指導(松尾敏男先生) ふれあい天文学(児玉忠恭先生 国立天文台)他

②あいさつ運動の充実

- * 毎週金曜日のあいさつ運動では、児童の方からあいさつできる子が増えた。また、毎朝交差点で児童の安全を見守って下さる交通安全協会の方からもよくあいさつするようになったとお褒めの言葉をいただいた。
- * 小中一貫による「あいさつ運動」の実施(年3回)

③安全な教育環境の整備

- * けがの対応について養護教諭を中心にマニュアルを見直し、全職員で共通理解した。
- * 避難訓練の方法について見直し、より安全を確保していくよう来年度に生かす。

④小中一貫教育の充実

- ・由井中学校（授業参観による交流、教員の合同研修、着衣水泳、生徒会による学校説明会等を実施。更に一貫教育を充実していく）
- ・中山中学校（授業参観と懇談会による交流を実施、青少対行事の交流（新春お餅つき大会）。

2. 次年度以降の課題と対応策

（課題）①学力向上

学力定着度調査では、ある程度の成果を出すことができたが、不安定な状況もあるため今後は、この水準を維持できるように更に努力していく。

（対応策）・家庭と連携し、「家庭学習」を習慣化できるようにする。

・土曜日補習教室

・平成24年度実施した土曜日補習教室の課題を改善し、よりよいものとしていく。

（課題）②小中一貫教育の充実

・中一ギャップ改善のために対応策を考える。

（対応策）・本校は、4年前から毎年学級編成替えを実施している。

・高学年の交換授業等を活用し、教科担任制等を取り入れる。

（課題）③基本的な生活習慣の定着

保護者アンケートから「児童の言葉遣いやあいさつ」について一定の評価は、いただいたが十分とは言えない。

（対応策）・今後も全教職員で継続的にあいさつ運動や言葉遣いについての指導を行っていく

（課題）④道徳教育の充実

保護者アンケートから「人権」に関わる授業がどのように行われているかが保護者に伝わりづらい面がある。

（対応策）・道徳授業の様子をできるだけ詳しく保護者に伝えると共に授業を工夫し、児童が人生についても考える機会を増やしていく。

（課題）⑤特別支援学級の円滑な運営

平成22年度に開級した「特別支援学級」は、平成25年度には、4学級に増える見込みである。更に指導を充実させる。

（対応策）早めに見通しを立て、全教職員で連携して運営、課題解決にあたる。

（課題）⑥地域とさらなる連携を図る

（対応策）・6月 平成24年度は、学校公開に合わせ体験型避難訓練を実施し、地域・保護者の方にも参加していただいたが、雨天のため縮小して実施した。5, 6年生も初期消火訓練、AEDの使い方・心臓マッサージ等の体験を行い、真剣に取り組み防災意識の向上に役立った。今後も課題を改善しつつ実施していく。

・7月 自治会の夏祭りを本校校庭で実施。（平成24年度 第32回夏祭りを実施）

*自治会、PTA、と更に連携し、夏祭りを実施していく。